

[エクラ]

パートナー受けのいい週末カジュアル

éclat

12 <https://eclat.hpplus.jp>
December
2016

Jマダム®の新アイコン
富岡佳子の
リアル私服スタイル

「タイツ×ボトム×靴」
今年はこの組み合わせ

BOOK in BOOK
あの予約のとれない有名店仕込み
ワインのおつまみ 12P

世界で唯一の場所。
大人好みの「奈良旅」

45歳からの「麗しマダム美容」
若さをつくる上アイライン
美人のコクづけ下アイライン
うっとり。香りのいいスキンケア

好奇心旺盛な人の本棚
えっ、私って世直しモンスター!?

50歳から
柔らかいカラダはつくれる!

吉田羊はなぜモテる?

エクラ世代のいいところも残念なところも
映し出すアイテムだから…

私達をきれいに見せる

「上質ニット」

あります。

「高くてもいいニット」は
顔映えとカラダ映えが違います
色で選ぶなら「幸福ドラジェ」と「品格グレー」
お出かけは「レースつきニット」一択
肉感を出さない、貧相に見せない「タートル&Vネック」
あ、ちょっと残念!と思わせない「ニットのお手入れ」「下着」

エクラプレミアム通販

真冬の防寒スタイル
オリジナル極上モヘアニット ほか

リの新居兼ショールーム・オフィスをエクラが世界初取材

カトリーヌ・メミのミニマル ・シックな暮らし

CATHERINE MEMMI

Minimalist Style in Paris

カンジナビアの丸みのある家具や、
の意匠に着想を得たインテリアデザイナー、
カトリーヌ・メミさん。
息子が巣立ったのをきっかけに、
いて心落ち着く暮らしを求めて、
世紀の貴族の館に転居。
アパートマンをリノベーションして、
「こんなインテリアに一新した！
シンプルで洗練空間」をコンセプトにつくり上げた
カトリーヌさんの住まいは、
このエクラ世代の、これからの暮らしのヒントにも
なろう。新居の全貌は日本初公開！

／斎藤順子 取材・文／木戸美由紀

リビング兼ショールーム。使用色をモノトーンやベージュ、グレーに限定し、空間をすっきりまとめるテクニックは参考にしたい。奥の麻のソファ「クチュール」、ローテーブル「エリブス」、手前左のソファ「ロップンギ」はフランネル。右のオートマン「リュウ・ド・バック」

300年の歴史あるお屋敷の アパートマンをリフォーム！ 家具が映える美空間が完成

①意匠の美しいらせん階段がめぐるエントランスホール。椅子はベストセラー「ギャラリー」、小テーブルは「アート ギャラリーミニ」
②緑豊かな庭に隣接する、パリ中心部では珍しい物件 ③リビングから、寝室、書斎まで一望できる ④素材サンプルを見ながらクライアント、建築家と内装デザインの打ち合わせ。「フランスではV.I.P.のお客さまをプライベートサロンに迎えるスタイルが最近のトレンド。アメリカでの仕事も増え、今年9月、NYとマイアミに展示スペースを開きました」



CATHERINE MEMMI

Minimal chic style in Paris



シンプルでラグジュアリーな家具を創作し、93年に「ニューミニマリズム」という独自の世界観をつくった、インテリアデザイナーのカトリーヌ・メミ。昨年からは住む新居はパリ左岸のサン・ジェルマン・デ・プレ広場の近く。市内でも随一の洗練されたエリアだ。

「長年暮らし、路面店を出したのもこの地区だから、ほかの場所に移ることは考えませんでした。ここは内見の日、中庭の木のそばにたずむ優雅な外観をひと目見て、気に入りました。前身は17世紀の貴族の館だそうですが、古い建物の内部を改装して現代的な住まいをつくるのが私のスタイル。モダンでシックな私の家具に、歴史を経た趣のある建物がぴったり合うからです」

アパートマンの広さは75㎡。実はもつと広い住居を探していたけれど、パリ中心部で緑豊かな庭に面した、静かな物件は希少。3人の息子は独立し、住人は夫婦だけ。また、天井高は3m以上あり、大きな窓が多く抜け感がないため、狭いとは感じないそうだ。

「週の半分をノルマンディ地方の別荘で過ごすから、パリの住居はさほど広くなくてよかった。アパートマンは友人の建築家がすべてリフォーム。昨春秋に引っ越しをして、家具をすべて替えました。一部がブランドの新作で、一部がバーマネント・コレクションです。実は昨年パリの店を開けて、自宅を顧客向けショールームとして使っているのですよ」

「カトリーヌ・メミ」の店があったサン・シュルピス通りには先鋭的な店やハイブランドが集まっていたが、時代とともに、カジュアル店の並ぶエリアに変わってしまったそうだ。

Living & Office

アートと家具。色と形で
コントラストを効かせて



黒、白、木材で和風の凛としたスペースが完成。昼は仕事、夜は食事にする。存在感のある絵はフランス人アーティスト、フィリップの作品。白のフラワーベース、スツールを足して絶妙なアクセントを。丸み材のテーブル「サンジェルマン・デ・ブレ」、椅子「アンソリット」、手前のスツール「トーキョー」



Bathroom & Kitchen etc...

美しい光に満ちた、穏やかな暮らし



東京でメミさんの
世界観を感じられる
ショップ



「カトリヌ・メミ」の家具、照明など、世界観を含めて商品を見ることができる「エ インテリアズ」内にあるショールーム。モノトーンの世界の中にも、女性らしい優しさのある空間に。エクラ世代のこれからのインテリアの参考になる暮らしの提案がある。
●東京都港区南青山4の22の5 エ インテリアズ内
☎03-6447-1451 10:30~19:00 ④水・日曜 w
www.catherinememmi.com CYM Conseil Paris

ものを2枚取り入れ、少しだけ色のタッチを加えたのも新しい試み。では、変わらない点は？

「シンプルでリユクスな空間づくりと、先ほどあげた4色を基本に使うこと。私は家に鮮やかな色調のものを少しだけ置くのが好き。身につける洋服や小物もそう。春夏は白、ベージュ、グリーン。秋冬は黒、白と決めていきます。ものを増やさないことを日ごろから意識し、部屋の飾りは陶器とアート本、絵だけ。増やさないとコツですか？ 端正で上質なものを持つと決めること。何かを買いたいと思ったら、理由を探します。それは美しい？ 質のいいもの？ すると、欲しいものが厳選され、ミニマルで美しい空間づくりがかないます。空間を整えばそこに暮らす人の心も整い、落ち着いた生活が送れますよ」

過去に福岡の「オテル・グレイージュ」の内装デザインを担当した彼女の夢は東京か京都でホテルを手がけることだ。「西洋の現代性と和の伝統が融合する、癒しのインテリアを提案したいですね」